

研究主題

自ら考え、言葉豊かに学び合う児童の育成
～主体的・対話的で深い学びの学習を通して～



I あいさつ

本校では、熊谷市の『「新熊谷プロジェクト」で、「学力日本一」を目指します!』の方針のもと、学校教育目標「高い目標と自律、共生の心を持った児童の育成」の具現化を目指し、知・徳・体のバランスのとれた学力の習得のため、学校・家庭・地域が一体となった教育活動に取り組んでいます。令和3・4年度の2年間、熊谷市教育委員会から学習指導の研究校として委嘱を受け、「熊谷の子どもは、これができる!『4つの実践』と『3減運動』」を土台に、研究主題を『自ら考え、言葉豊かに学び合う児童の育成』とし、研究を進めてまいりました。ここに研究の一端を発表させていただきます。皆様から御指導をいただき、さらに研究を深めてまいりたいと存じます。結びに、これまでの研究推進にあたり、格別の御指導をいただきました熊谷市教育委員会の先生方並びに関係の皆様方に心より感謝を申し上げ、あいさつといたします。

II 主題設定の理由

変化が激しく予測が困難なこれからの社会を生きる子供たちには、未知の状況に出会っても、決して怯まず諦めることなく、自ら解決方法を考え、仲間とともに最適解を探っていく力を身に付けさせることが求められている。そこで、算数科の授業において、「数学的な見方・考え方」を養うことに重点を置くことで、主体的・対話的で深い学びを実現し、よりよい解決方法や多様な考えを生み出していけるような「自ら考え、言葉豊かに学び合う児童」の育成を目指すこととした。

III 研究構想図

学校教育目標：高い目標と自律、共生の心を持った児童の育成

自ら考え、言葉豊かに学び合う児童の育成
～主体的・対話的で深い学びの学習を通して～

授業力アップ部

仮説2 数学的な見方・考え方を養うことに重点をおいた授業実践し、新たな問題を既習の学習と関連付けて捉えられるようにすることで、「自ら考え、言葉豊かに学び合う児童」を育成することができる。○「別府小 別冊 新しい算数」の活用 ○考え方名人モデルの活用 ○算数コーナーの設置 ○名人ノートの掲示 ○5つの授業の約束

学びの土台部・調査研究部

仮説1 学びの土台である「授業の流れ」や「学習環境」を整備することで、「自ら考え、言葉豊かに学び合う児童」を育成することができる。○算数スタンダード ○学校統一の環境整備 ○知能検査の活用 ○プリントボックスの活用 ○先生のための学びのコーナー&研修 ○話し方・聞き方指導 ○GIGAの活用

